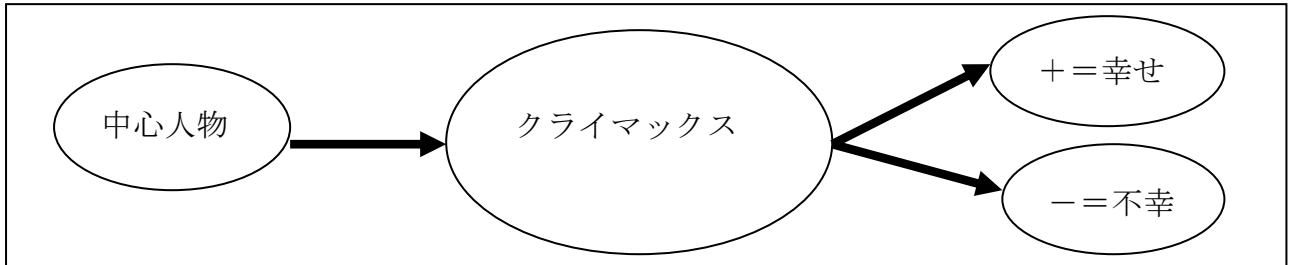


国語の基礎は、「用語」「方法」「原理・原則」

- ① さまざまな用語を知り活用する力
 - ② 方法を身につけて活用する力
 - ③ 原理・原則をとらえて活用する力
- } → 他へ転移できる力

文学作品の授業

文学作品を読む上で肝心なこと…因果関係をとらえること



文学作品の10の観点

- ① 時・場所…物語の設定を理解する
 - ② 登場人物…物語の中で人間のように動いたり，話したりする人や動物，物
 - ③ 中心人物…物語の中で一番心が変わった人 または 物語の語り手
 - ④ 語り手…視点
 - 一人称限定視点「私は〇〇しました」
 - 三人称限定視点「Aは〇〇しました」「Aは〇〇と思いました」
(視点を固定して，行動と心情を描く)
 - 三人称客観視点「Aは〇〇しました」「そのときBは，笑いました」
(視点を固定せず，行動のみを描く)
 - 三人称全知視点「Aは〇〇しました」「Bは，〇〇と思いました」
(視点を固定せず，行動と心情を描く)
 - ⑤ 出来事…
 - ⑥ 大きく変わったこと…
- 四つの部 (導入部・展開部・山場の部・終結部)
六つの点 (冒頭・発端・山場の始まり・クライマックス・結末・おわり)
- ⑦ 三部構成…
「はじめ・中・おわり」(特に，低学年)
 - ⑧ お話の図…別図
 - ⑨ 一文で書く…【中心人物】が【出来事】によって，【変容】になる話
 - ⑩ おもしろさ…笑えるおもしろさではない
設定の巧妙さ，言葉の使い方，発想の奇抜さ

説明文の授業

説明文でとらえることは、「問いと答え」

低学年
問い+答え 段落意識・文意識・主語意識

中学年
問い+実験・観察・調査・事例+答え
①何が ②いくつ ③何のために ④どうなった

高学年
問い+実験・観察・調査・事例+答え+要旨
具体 抽象

説明文の10の観点

- ①題名…題名から問題を作る
- ②形式段落…形式段落で文章構成図を描くために、低学年から教える。
- ③意味段落…④形式段落の主語を見つけるとわかる
- ④形式段落の主語をとらえる→⑥三部構成につながる
- ⑤要点…形式段落をまとめる
 - I 形式段落がいくつの文でできているかを見る
 - II 形式段落の中から大切な一文を取り出す
 - III 取り出した一文を短くする（形式段落の主語を文末において体言止め）

説明文の三つの文型（形式段落の中もこのようになっている）

- I 頭括型…結論が最初に来ているもの。低学年に多い。
- II 尾括型…結論が最後に来ているもの。全体を貫く問いがあって、それをさまざまな事例によって検証し、最後に結論を述べる。
- III 双括型…結論が、最初と最後にあるもの。

⑥三部構成…「はじめ」「中」「おわり」に分ける
部分のまとまりを表す問いと答えは切り離せない

⑦問いと答えの関係

3つの問い
I 全体を貫く問い II 部分のまとまりを表す問い III 隠されている問い

- ⑧文章構成図…⑥三部構成から細かく分ける 事例(具体と抽象)・要旨(主張)につながる
- ⑨事例(具体と抽象)…抽象から具体を見つける訓練も必要
- ⑩要旨(主張)…要点・要約(文章全体をまとめる)・要約(筆者の主張点)の違いを知る